



室戸台風のひ害。築港大棧橋に乗り上げ横だおしになった船



1969年(昭和44年)ごろの中央突堤のようす



現在の中央突堤のようす

●大阪大空襲



1945年(昭和20年)3月13日、大阪市はアメリカのB29約90機の空襲をうけた。市内は火の海になり、建物はほとんど焼けてしまい、50万人の市民が家を失った。大阪港も1945年1月19日を最初に10回の空襲をうけた。中でも6月1日の大空襲によって、大阪港はたいへん大きなひ害を受けた。

しょうわ (3) 昭和のころのようす

① 貨物量が日本一の大坂港

大阪港は1934年(昭和9年)の室戸台風で大きなひ害を受けましたが、さっそく復興の大工事がはじまり、1937年(昭和12年)には入港船が22万隻になり、1939年(昭和14年)には取りあつかい貨物量も3000万トンをこえる日本一の港としてさかえました。

② 戦争のひ害から立ちなおる

日本は1941年(昭和16年)から1945年(昭和20年)まで、太平洋戦争を戦い敗れました。特に1945年の大阪大空襲はすさまじいもので、大阪市内も港も、建物は焼け、施設はこわされてしまいました。

しかし大阪市の発展にとって、港はなくてはならないたいせつな施設です。敗戦から2年後の1947年(昭和22年)から、大阪港復興計画がはじまり、翌年には早くも外国貿易が再開されました。